

第5次総合計画基本計画 中間総括評価表【施策編】

施策主管課	観光交流課	総合計画記載頁	165ページ
-------	-------	---------	--------

政策の柱	IV 市民の豊かな暮らしを支える活気と活力のある社会を築くために	政策名 (基本施策名)	4 魅力ある観光と交流を創出する	施策名	① おもてなしの向上
------	----------------------------------	----------------	------------------	-----	------------

1 施策の取組状況

主要な取組内容	施策指標の実績とH24末の見通し	指標の達成率	施策指標等 (最上段が、総合計画に基づく指標)	単位	指標の数値(上段:目標値, 下段:実績値)						達成率
					H19 基準年	H20 実績	H21 実績	H22 実績	H23 見込み	H24 見込み	H22 H24見通し
<p>◆市民の郷土愛や観光おもてなし意識の向上を図るため、市民を中心に「宮のもの知り達人検定」などを実施し意識の啓発に努めている。</p> <p>◆市民や事業所のおもてなし向上を推進するため、官民協同でおもてなし推進委員会を設立し、市民を観光ボランティアに養成する講座の実施や、事業所においては、おもてなしモニター制度の活用などに努めている。</p> <p>◆首都圏在住者の本市への来訪の契機とするため、これまで以上に活動エリアを拡大し、旅行雑誌やフリーペーパー新聞等のメディアを積極的に活用するなど情報発信に努めている。</p>	<p>◆活動指標について、「来てよかった」、「また訪れたい」と感じる割合は、徐々に増加していたが、H22年は、減少となっている。</p> <p>⇒ H24の見通しとしては、市民や事業所の来訪者に対するおもてなし意識啓発や観光案内所などの案内機能や情報発信を強化することで、目標達成は可能と考えている。</p> <p>◆市内宿泊者数は、増加傾向にある。</p> <p>⇒ H24の見通しとしては、東日本大震災や原発事故等の影響を受け、H23年上半期で前年比で落ち込んでいるものの、目標達成は可能と考えている。</p>	92.4%	「来てよかった」、「また訪れたい」と感じている来訪者の割合	%		46.0	47.0	48.0	49.0	50.0	92.4%
			宿泊者数	人	47.6	47.9	51.1	46.2	49.0	50.0	100.0%
					1,011,698	1,073,194	1,017,860	1,077,209	1,025,000	1,030,000	100.0%
課題	<p>◆東日本大震災による被害、自粛ムード、原発事故等の風評被害の影響により、来訪者の減少が懸念されており課題となっている。</p> <p>◆来訪者から事業者の接遇に関する意見も見受けられることから、来訪者に対するおもてなし向上が課題となっている。</p>		市民意識調査(重要度・満足度)			H20	H21	H22			
			重要度		54.4	53.8	63.3				%
			満足度		25.2	23.1	27.7				%

2 重点事業の進捗状況

事業名	スケジュール 前期 後期	事業の進捗状況とH24末の見通し	課題
おもてなし推進事業	→	<p>◆おもてなしの推進については、平成20年に官民協同で「おもてなし推進委員会」を設立し、組織の一本化により推進体制の充実を図り、「宮のもの知り達人検定」や「ボランティア養成講座」、「うつのみやおもてなしBOOK」の配布などを通して市民のおもてなし意識の啓発・向上を図っている。</p> <p>⇒ H24に向け、おもてなし推進委員会の構成団体や構成員の増加など、さらに推進体制の強化を図り、委員会の実施事業の見直しや、市内で開催されるイベントにおけるPR活動等により、おもてなしの普及啓発が進み、市民のおもてなし意識が向上する見通し。</p> <p>◆おもてなしモニター・顕彰制度については、事業所のモニター実施をしているものの、事業所からのモニター要望数が伸び悩んでいる。また、顕彰制度については、現在、検討中である。</p> <p>⇒ H24に向け、様々な機会を捉えた啓発活動や、顕彰制度の実施等により、参加事業所の増加を図り、制度の普及が進む見通し。</p>	◆おもてなし推進事業については、おもてなし推進委員会において各種事業を実施しているが、継続して実施している事業は、年々、参加者が減少傾向にある。また、おもてなしに無関心の方々に対していかにして普及啓発するのが課題である。
観光・コンベンション機能の充実	○ 拡充	<p>◆観光案内施設の充実については、宇都宮観光コンベンション協会において、中心市街地の飲食店やホテルなど協力店舗に「まちかど案内所」としてパンフレットスタンドを設置している。</p> <p>⇒ H24に向け、「まちかど案内所」の増設などにより、本市の情報発信機能が強化される見通し。</p> <p>◆観光ボランティア団体の運営支援については、観光ボランティア養成講座実施の支援や宇都宮観光コンベンション協会において「うつのみやシティガイド協会」会員の接遇や知識面のレベルアップのための研修会を実施している。</p> <p>⇒ H24に向け、うつのみやシティガイド協会の組織強化や、活動場所の提供などの支援充実が図られる見通し。</p> <p>◆宇都宮観光コンベンション協会が中心となり、コンベンション情報の収集や提供、コンベンション関連の各種業界や団体等との協力体制構築や活動強化に努めている。</p> <p>⇒ H24に向け、宇都宮観光コンベンション協会における情報収集の強化や分かりやすい情報提供、各種業界や団体等が一体となったより効果的なコンベンション誘致活動が可能になる見通し。</p>	◆コンベンション開催数を増加させるため、誘致活動の強化が課題である。 ◆宇都宮観光コンベンション協会の組織のあり方や機能強化が課題である。

3 施策を構成する事務事業の活動指標

No.	事業名	対象者	開始年度	活動指標等	単位	指標の数値（上段：目標値、下段：実績値）			
						H20	H21	H22	H23
						実績	実績	実績	
1	おもてなし推進委員会負担金	おもてなし推進委員会	H20	おもてなし事業参加者数（人・団体）	件	19	19	19	19
				観光ボランティア講座受講者数	人	15	15	5	
						20	20	20	20
				宮のもの知り達人検定受験者数	人	10	20	17	
						150	150	150	150
				110	67	47			
2	観光コンベンション協会事業補助金	宇都宮観光コンベンション協会	H12	コンベンション開催数	回	160	160	160	160
						133	146	142	
3	くちコミ特派員事業	首都圏在住者又は通勤・通学者等	H13	くちコミ特派員人数	人	20	20	20	20
						17	17	18	
				くちコミ特派員による情報提供回数	回	200	200	200	200
						198	204	216	
4	首都圏マスメディア活用事業	主に首都圏在住者	H21	掲載媒体及び回数	回	—	2	2	2
						—	2	2	

第5次総合計画基本計画 中間総括評価表【施策編】

政策の柱	IV 市民の豊かな暮らしを支える活気と活力のある社会を築くために	政策名 (基本施策名)	4 魅力ある観光と交流を創出する	施策名	② 観光資源の活用促進
------	----------------------------------	----------------	------------------	-----	-------------

1 施策の取組状況

主要な取組内容	施策指標の実績とH24末の見通し	指標の達成率	施策指標等 (最上段が、総合計画に基づく指標)	単位	指標の数値(上段:目標値, 下段:実績値)						達成率 H22 H24見通し
					H19 基準年	H20 実績	H21 実績	H22 実績	H23 見込み	H24 見込み	
◆観光客のニーズが高まっている体験型・参加型の観光を促進するために、地場産業の店舗の一部を物づくりの体験ができる誘客施設として「まちかど観光体験館」を整備推進している。 ◆大谷観光を推進するため、地元住民による大谷奇岩群などの特異な景観の保全活動や、フェスタin大谷のイベント開催を支援している。 ◆県や県内市町と一緒に観光キャンペーンや観光キャラバンを実施するほか、インディジャパンプレイイベントや熱気球大会などのイベントなどと連携するなど広域観光を推進している。	◆活動指標について、年間入込客数は、増加傾向にあったが、H22は減少となっている。 ⇒ H24末の状況としては、東日本大震災や原発事故等の影響を受け、観光施設の損壊や休館があり、H23年上半年期で前年比で落ち込んでいるため、当初の目標達成は難しい。	90.2%	年間入込客数	千人		13,533	13,885	14,259	14,659	15,000	90.2%
					13,209	13,837	13,879	13,531	11,500	13,000	86.7%
課題	◆東日本大震災による被害、自粛ムード、原発事故等の風評被害の影響により、来訪者の減少が懸念されている。 ◆観光スタイルの変化に伴い、新たな観光資源の開発や体験型観光、イベント等の充実による既存資源の活用や広域連携による誘客が課題である。		市民意識調査(重要度・満足度)			H20	H21	H22			
			重要度		52.4	53.0	63.0			%	
			満足度		32.7	32.5	37.2			%	

2 重点事業の進捗状況

事業名	スケジュール		事業の進捗状況とH24末の見通し	課題
	前期	後期		
体験型・参加型観光の促進	→		◆まちかど観光体験館の整備や、農林公園ろまんちっく村や篠井農産加工所等における農作業体験、地元農産物を使った農産加工体験などの開催により、多様な体験型・参加型観光の機会を提供している。 ⇒ H24に向け、体験メニューの充実や、積極的なPRを実施し、更なる利用促進が図られる見通し。 ◆産業観光の促進については、市内の製造工場、伝統工芸、地場産業(大谷石材、地酒)などにおいて、見学や体験をさせている事業所の集約やそれを活用した観光ルート開発について検討中である。 ⇒ H24に向け、工場見学実施企業の情報を集約し、PRや新たな観光ルートの整備を行い産業観光が活発化する見通し。 ◆ふるさと宇都宮の伝統文化の継承については、「伝統工芸品展」の開催やパンフレットなどによるPR、また、伝統工芸を継承する宮のものづくり達人による出前講座などを通して普及啓発をしている。 ⇒ H24に向け、引き続き伝統工芸品展の開催やパンフレットなどにより普及啓発が図られる見通し。	◆多様な体験型や参加型観光の機会を提供するため、民間事業者の主体的な取組みを支援していく必要がある。
地域特性資源の活用促進	→		◆本市の特色である「食」、「文化」、「農」など地域資源を活用したイベントとして「餃子まつり」や「ミヤ・ジャズ・イン」、「農林業祭」、「さつき&花フェア」などを開催しており、毎年、県外からも多くの来訪者が訪れている。 ⇒ H24に向け、各団体と連携し、イベント内容の充実を図り、市内外へも積極的なPR活動を行うことで来訪者が増加する見通し。 ◆本市を拠点とするプロスポーツ団体などを活用し、ホームゲーム開催時には来場者に対して本市の魅力PRし、交流人口増加に努めている。 ⇒ H24に向け、各団体と連携し、本市への誘客活動を行うことで、交流人口が増加する見通し。	◆地域資源活用するイベントにおいては、多くの観光客を呼び込むために常に新しい魅力を創出するなど内容の充実を図ることが課題である。 ◆地域資源の活用においては、豊かな農産資源をいかにして観光と連携させるかが課題となっている。

3 施策を構成する事務事業の活動指標

No.	事業名	対象者	開始年度	活動指標等	単位	指標の数値(上段:目標値,下段:実績値)			
						H20	H21	H22	H23
						実績	実績	実績	
1	観光宣伝事業	来訪者,市民,市民以外	S59	観光パンフレット等作成部数	部	105,000	85,000	90,000	95,000
						58,200	72,100	75,000	
2	(財)大谷地域整備公社運営費補助金	(財)大谷地域整備公社	H2	観測システムによる常時監視	年	1	1	1	1
						1	1	1	
3	広域観光宣伝事業	各種協議会	H3	加盟団体数	団体	5	5	5	4
						5	5	4	
4	首都圏キャンペーン参画事業	主に首都圏在住者	H21	参画イベント・キャンペーン数	回	—	5	6	7
						—	5	6	
5	ふるさと宮まつり開催委員会事業補助金	ふるさと宮まつり開催委員会	S50	観客者数	人	500,000	550,000	600,000	550,000
						550,000	550,000	550,000	
				市民参加者数	人	14,000	20,000	21,000	20,000
						20,000	20,000	21,300	
6	うつのみや花火大会実行委員会補助金	うつのみや花火大会実行委員会	S59	観客動員数	人	300,000	300,000	300,000	350,000
						250,000	350,000	350,000	
				協賛金総額	千円	23,000	23,000	23,000	23,000
						22,517	19,410	17,610	
				法人スポンサー数	社	150	150	150	150
						142	155	77	
7	宇都宮バルーンフェスティバル活用事業	とちぎ熱気球選手権実行委員会	H18	大会開催日数	日	3	3	3	3
						3	3	3	
				来場者数	人	100,000	100,000	100,000	100,000
						70,000	100,000	97,000	
8	フェスタin大谷交付金	フェスタin大谷実行委員会	H13	参加団体数	団体	17	17	17	17
						15	21	26	
				来場者数	人	30,000	30,000	30,000	30,000
						25,000	28,000	22,000	
9	インディ活用事業	インディジャパン300プレイベント実行委員会	H17	イベント実施期間	日	70	70	70	70
						74	73	74	
				プレイベント企画及び実施件数	件	8	8	8	8
						9	6	5	
10	大谷観光景観形成事業補助金	地元住民団体	H20	岩出し及び下草刈り等景観整備面積	㎡	15,000	15,000	15,000	15,000
						15,000	15,000	15,000	
				会員数	人	100	100	100	100
						86	83	83	

3 施策を構成する事務事業の活動指標

No.	事業名	対象者	開始年度	活動指標等	単位	指標の数値（上段：目標値，下段：実績値）			
						H20	H21	H22	H23
						実績	実績	実績	
11	まちかど観光体験館整備事業	まちかど観光体験館設置者(事業主)	H18	まちかど観光体験館設置件数	件	1	1	1	1
						1	1	0	
12	大谷石採取場跡地有効利用共同研究事業	地域及び地域住民	H21	共同研究の実施	回	—	1	1	1
						—	1	1	
13	北関交流フェア負担金	北関東自動車道沿線で交流フェアなどの連携事業を開催する自治体	H14	参加イベント数	回	6	5	5	5
						6	4	3	

